

平成30年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



5月号

1か月が過ぎました！

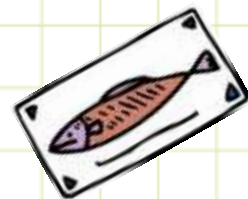
新年度が始まり早くも1ヶ月が過ぎました。新しい環境に最初は戸惑いもあったかもしれませんが、慣れてきている頃ではないでしょうか。

初夏を感じさせる気候になってきましたが、雨が降るとまだまだ肌寒さがよみがえってきますね。上着を片手に細かい体温調節を心がけましょう。



年間行事

- 6月16日(土) 第1回授業公開・視覚障害児童生徒担任交流会
- 7月3日(火) 保護者交流会
- 7月25日(水) サマースクール
- 7月30日(月) 視覚障害のガイドヘルプ&点字体験
- 8月2日(木) パソコン講習会
- 8月3日(金) 弱視教育研修会
- 9月29日(土) 体育祭
- 10月20日(土) 第2回授業公開・学校説明会
- 11月3日(土) 文化祭
- 11月15日(木) 高等部体験入学
- 12月7日(金) 第2回保護者交流会
- 12月26日(水) ウィンタースクール
- 1月25日(金) 第3回授業公開



視覚障害児童生徒担任交流会（第1回授業公開）

日時 平成30年6月16日(土) 10:00~15:30

対象 教育相談に来られている児童・生徒の担任の先生

内容 授業見学、校内見学、情報交換会、個別相談

※情報交換ができる貴重な機会ですので、多くの先生方のご参加をお待ちしています！！

点字の歴史

券売機やエレベーター、カンの容器などに見られる点字ですが、どのような経緯で考案されたのでしょうか。今月から3回にわたり、点字の考案の経緯と日本での普及について説明していきます。

<点字の原型>

点字が考案されるまで、視覚障害者のための文字といえば、活字を木や紙に浮き出させた文字が世界中で使われていました。しかし、日本語の「あ」という活字を例に挙げても分かるように、直線・方向転換・丸み・交差など、複雑な形が混在することで、活字を1文字1文字触って読み取るのに相当な時間を要してしまいます。

活字を浮き出させるのではなく、点と点の組み合わせにより文字を表現した方が読みやすいことに気づき、現在使われている点字の原型を考案したのはフランスの軍人でした。ナポレオン時代の軍人であるシャルル・バルビエが、軍の暗号用として、夜でも触覚だけで読むことができる、縦6点・横2点で表現する12点の文字を考案したのです。

しかし、みなさんも点字の五十音の規則性を覚えたとしても、実際触ってすぐに点字が読めるわけではありませんね。当時のフランス軍の人たちも触って内容を把握することが大変困難だということが分かり、ナポレオン軍では正式に採用されなかったそうです。

ナポレオン軍で採用されなかったバルビエの12点式点字でしたが、盲人用文字として活用できないかと彼は考え、パリの盲学校に紹介しました。現在のような平和な時代と異なり、ヨーロッパ統一を目指すフランスでは、戦争で視力を失う人も多く、バルビエは彼らのための文字を作りたかったのでしょうかね。

そんな盲学校の生徒の中に、ルイ・ブライユがいました。ブライユとバルビエの点字の出会いにより、より触りやすく実用的なものへと点字は改良が加えられていくのです。今回はブライユがバルビエの点字を改良していく模様をお伝えします。

